

天遊



Contents

男女共同参画推進コラム
手をつないで VOL.12

STUDENTS NOW!
内定者インタビュー

ラボ訪問

卒業生キャッチ

附属学校園ウォッチ
本読みのススメ 第13話

TOPICS

特集
高等学校と連携し、次代を担う教師を育てる

「府立高校教職コンソーシアム」

連携交流事業



国立大学法人
大阪教育大学

表紙モデル: 多田真由子さん、西川香蓮さん、太田大貴さん、馬場花道さん

「府立高校教職コンソーシアム」 連携交流事業

2015年1月、大阪教育大学は「府立高校教職コンソーシアム」との連携交流をスタートさせました。教師という仕事の魅力を伝え、次代を担うすぐれた教師の育成につなげることを目的に、加盟する大阪府立高校の生徒および教員を対象に6つの連携事業を行っています。

◎府立高校教職コンソーシアムとは

大阪府立八尾高等学校、生野高等学校、泉陽高等学校、寝屋川高等学校の各校長が呼びかけ、すぐれた資質を備えた次代を担う魅力ある「教員」を育てるために、本学をはじめとする教育系大学と連携し、「教員になること」を具体的にイメージできる機会を生徒に提供することを目的として、府立高校32校により2014年12月に結成されました。

加盟校一覽

生野、池田、和泉、市岡、茨木、教育センター附属、大手前、鳳、柏原東、春日丘、河南、岸和田、北千里、北野、高津、桜塚、四條畷、清水谷、住吉、泉北、泉陽、千里、高槻北、槻の木、天王寺、豊中、寝屋川、東住吉、三国丘、三島、八尾、夕陽丘



★ 連携交流事業 ★

1 キャンパスガイド「大教大をまるごと体験しよう！」

「人工知能がいくら発達しようとも、人を教えるのは、
人でなければならない」——栗林 澄夫 学長

教師を志望する生徒、少しでも興味のある生徒に、教師の魅力と大阪教育大学の魅力を伝えるミニオープンキャンパスを、11月21日に開催しました。大学紹介では数学教育専攻学生3人組「よっしー・きっしー・ねっしー」が軽妙なかけあいであいを誘い、府



などの施設を見て回りました。ほかにも著名教授による講義体験、学生・教員が生徒の質問に答えるコーナーなど、大阪教育大学を体感できるさまざまな催しが繰り広げられました。実施後のアンケートでは、教師を志す気持ちが生まれた、またはさらに強まったと答えた生徒が合わせて約4割増加し、「先輩方や先生の話を聞いて、ぜひ大学で勉強し教師になりたいと思った」「堅い印象が強かったが良い意味で崩れた」といった感想が寄せられました。

2 作文コンクール
「Leading to the Future
未来に向かって
——教師・夢・感動——」表彰式



教師に対する熱い思いを語り合い、未来に希望を抱く



加盟校生徒を対象に、恩師とのエピソード、教師になりたいと思うようになったきっかけ、夢への意気込みなど、未来に向かう気持ちを綴った作文を募集し、11月21日実施のキャンパスガイドに合わせて表彰式を行いました。栗林澄大学長から賞状が授与された後、最優秀賞・優秀賞を受賞した生徒が作品を朗読し、生徒たちは真剣な面持ちで聞き入っていました。さらに「理想の教師像」をテーマに、受賞生徒と大学教員、府立高校長、大学生がパネルディスカッションをしました。受賞生徒がそれぞれ自分のめざす教師像を語り、教員からは「生徒理解の根底は自分理解。自分の原点を見つめて」「現実さこうだと割り切るのではなく、夢を抱くことが大切。夢をもつ生徒がいたら実現を手助けするのが教師の仕事だ」など、熱いメッセージが送られました。

3 教師塾「教師の学び舎」

若手教員に対し、連合教職大学院と同等の講義を提供します。1クール全3回で、現場経験をもつ実務家教員による講話などもあり、実践力の向上や得意分野の開拓をめざします。



4 メールマガジン「学びの架け橋」

大阪教育大学が発信するメールマガジン。
連携事業の紹介、加盟校の取り組み紹介、
加盟校出身学生のインタビュー、リレー
エッセイなど多彩なコンテンツがあります。



5 出前授業

大学教員が高校に出向き、大阪教育大学ならではの特別授業を行います。講義を聞くだけでなく、生徒が主体的に参加する「アクティブ・ラーニング」手法の授業を実施しています。



6 加盟校出身学生の高校訪問

加盟校出身の学生が母校を訪問し、教師の魅力、大阪教育大学の魅力を伝えます。受験のアドバイスや大学での学びなどを語り、教師になる夢を後押しします。



手をつないで VOL. 12 男女共同参画推進コラム

昨年改訂された全ての小学校6年生算数教科書で人口ピラミッドが掲載（但し、一部記載に誤り等あり）されるようになった。そのグラフからも少子高齢化は伺え、育児・介護に関わる対策は急務となっている。

勿論、国は、対策を講じ、厚生労働省パンフレット『改正育児・介護休業法のあらまし』(2010)にまとめられているように育児休業・介護の拡充、両親での育児休業、男性の育児取得や労働制限に関して政策を打ち出している。また身近では、各施設で授乳室などの整備が設けられたり、学会でも開催期間中に保育室・託児所が設けられる現状がある。それらの成果は、少子化社会対策白書(2015内閣府)の子育て支援施策充実(支援新制度の円滑実施、待機児童解消、小1の壁打破)や男女の働き方改革(男性の意識・行動改革、ワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進)等々の項目としてまとめられている。

ただ、制度上の整備は何えるものの、現実的には例えば「雇用均等基本調査(2014)」で育児休業取得者の割合が女性86.6%(前回調査比3.6増)となるものの、男性2.3%(同0.27増)に留まり、政府が掲げる2020年男性13%とは乖離するなど、実態の伴わないことも多い。

また最近のニュースとして「子供をお迎えに行く父親は本当に出世できないのか(企業の求める働き方と相いれないお迎え時間、「女性活躍推進」で母親のお迎えも遅くなる?)」を目にし、実際、延長・夜間保育が増加する現状を合わせて考えると、制度が絵に描いた餅にならぬかと危惧せざるを得ない。

加えて、「園児の声を騒音のように意識する等により保育所立地に反対する住民の立場に、同感できるか、できないか」で「同感できる」考えが35%の割合であった(2015厚生労働白書)現状もある。

以上からすると、現場・周囲と実行出来る環境作りの整備が必要な時期に来ているのではないかと考える。

男女共同参画推進会議
企画専門部会委員 富永 雅(実践学校教育講座准教授)

Students Now!

教育実践を勉強の場ととらえて

大阪市の小学校教諭に採用内定



第二部小学校教員養成5年課程

くろ いわ ひろ ひで
黒岩 裕英さん

—「学校インターンシップ制度」を活用されたそうですね。

黒岩 第二部独自の制度で、提携している公立小学校へボランティアとして週に1回出向き、特別な支援が必要な子どもの学習補助を中心に働いています。実践でしか学べないことがたくさんあって、たとえば言語でのコミュニケーションが難しい子どもに、先生が上手にボディランゲージを使っているのを見て、こんなアプローチの仕方もあるのだなと参考になります。ぼくの支援を必要としている子どもがいることで、穴をあけてはいけないという責任感も生まれますし、朝8時前からフルタイムで勤務した後、夜は21時まで座学で勉強するので、ちょうど先生になるためのウォーミングアップにもなります!

—派遣先の学校ではどのようなことを?

黒岩 「授業実践をしたい」「給食を子どもたちと一緒に食べたい」「修学旅行に同行

したい」など、こちらからやりたいことを提案すれば、先生たちも応えてくれます。教員採用試験時には校長先生直々に面接指導をしてもらいました。アルバイトとして受け入れてもらうこともできますが、お金をもらって働くよりも、ただで勉強させてもらっているという心構えでいたほうが、よりいろんな知識を吸収できるのではないかと思います。

—第二部での学生生活はいかがでしたか?

黒岩 一学年40人程度と少人数なので、大学というよりも高校の延長線上といった感じで、深く親密な関係を築けました。5年間同じ目標に向かって一緒に切磋琢磨してきたので、普段は明るくやんちゃな仲間たちが教員採用試験を経て目つきが変わるのを見て、自分も自然とモチベーションが高まりました。

—どんな先生になりたいですか?

黒岩 校長先生になりたい!それは半分冗談ですが、教師としてというよりも、一人の人間として、人生を全力で、なおかつ楽しく生きている姿を子どもたちに見せたいです。趣味が電車やバイクで全国津々浦々の街をめぐることなので、社会科の教科書には載っていない各地の良さを、生き生きと自分の言葉で伝えられたらいいですね。

どんな教育指導をしたいかを軸に

岡山県の私立中学・高等学校教諭[国語]に採用内定



大学院美術教育専攻(書道コース)

おお た な つ こ
太田 菜津子さん

—岡山県の中学校教諭の内定も得ていたのですが。

太田 どちらの道に進むか悩んだ際、教師になって何をやりたいのかを軸に据えて考えました。大学院で3年間書道教育について学び、国語と書写・書道は共通の言語文化を扱うことから密接な関係があって、連携学習によって相乗効果を発揮できる可能性を見出しました。私立中学校・高校の面接で、そういった教科教育の研究を深め、子どもたちに成果を還元することを学校側が望んでいるとわかり、教師として自分のやりたいこととのマッチングや、可能性の広がり決め手となりました。

—教員採用試験ではどのような準備を?

太田 おすすめしたいのが、シミュレーションノートをつくることです。入学式やホームルーム、保護者会など、いろんな場面を想定し、そのときの対応策をノートに

書き記すというシンプルなものですが、文字に起こすことで自分の考えやめざす教師像が明確になります。教員採用試験の二次面接では、「生徒がこんなアクションを起こしたらどう対応しますか?」といった具体的な場面設定が提示されます。自分の言葉で臨場感ある回答が求められるため、このノートがとても役立ちました。

—附属中学校で非常勤講師をしていた経験も活かされたのでは?

太田 附属池田中学校と附属平野中学校で2年半書写を教えています。現場での反省と改善を繰り返すことで、こういった事態にはこう対応しようという、自分なりの指導軸が明確になりました。

—どんな先生になりたいですか?

太田 中学生や高校生という頭と心のやわらかい時期に、国語の面白さや大切さを伝えていきたいです。子どもたちが大人になってふと「中学・高校時代の国語の時間は楽しかったなあ」「あ、今国語の授業が役に立ってるな」と振り返ってもらえるような授業を展開できるようにがんばります。

—養護教諭から企業就職へと志望先を転向したきっかけは?

前出 アルバイトやサークル、ボランティアなど、高校ではできなかったことに挑戦して視野が広がり、学校という枠組みを超えてさまざまな仕事に挑戦したい気持ちが強くなったため、将来を見つめなおすようになりました。3回生になっていよいよ人生の岐路に立った時、後悔したくないという思いが強くなり、就職活動に転向しました。

—行政職を志望した理由は?

前出 日本経済の発展に寄与したいとの思いが根底にあり、その99%を占めるといわれる中小企業を支えることで、大学生活で関わった子どもたちをはじめ、さまざまな人がより良い生活を送れるようなと思いました。民間企業の場合は性質上、利益重視になるため、公平・平等に奉仕できる行政の仕事に魅力を感じました。

—数ある自治体の中で大阪府庁を選んだのは?

前出 公務員試験に備えるだけの時間が取れなかったこともあり、面接重視とされる大阪府庁に照準を絞りました。また、ウェブページなどで府政を勉強してみて、管轄する領域の幅広さに、大学で学んだことが活かせるのではないかと感じ、より入庁したい気持ちが強くなりました。養護教諭養

周りに流されず、後悔しない選択を

大阪府庁(行政職)に採用内定

成課程は、教員養成課程の中では特殊なコースですが、医学や看護学、養護学といった知識は子ども支援や保険・医療などさまざまな施策に応用できるのではないかと考えたのです。

—入庁したらどんな仕事をしたいですか?

前出 経営・金融の支援や相談など、中小企業の経営者や従業員と直接話ができる、産業振興の分野に興味があります。ほかにも、大学で勉強したことを還元できそうな、健康づくりや教育、大阪の魅力を発信して地域全体の活性化につなげる観光など、やりたい仕事がたくさんあって今から楽しみです。

—後輩に向けてメッセージを

前出 卒業後の何十年と続く人生の選択を、大学のたった数ヶ月の間に決めないといけません。大きく、重い決断ですので、周囲の状況に流されず、先生や家族、友人など、いろんな人に相談して、後悔しない選択をしてください。



養護教諭養成課程

まえ で ゆ い か
前出 唯以香さん

—就職活動はいかがでしたか?

石田 情報科学を専攻しているので、IT・Web・エンジニア系の職種を軸に据え、業種はさまざまに活動しました。それに加えて、人を大切にする企業であるかどうかもありサーチしました。

—人を大切にする企業ですか?

石田 実家に金銭面での負担を掛けたくなかったので、週5日、朝6時半から6時間勤務のアルバイトで生計を立てていました。業務は窓口での接客でしたが、超過勤務が多く、クレーム対応も頻繁で、なかなかハードな職場でした。ある意味、社会のリアルを学び、やりたい仕事を見つけると同時に、長く、いきいきと働ける、そんな職場環境を探すことも同じぐらい大切なのだと気付かされました。YKKグループは「自律と共生」を人事理念に掲げていて、説明会や面接でも、自主性を重んじ、人を資本とした組織づくりをしているのがよく伝わり、ここで腰を据えて働きたいとの思いが強くなりました。

—学生時代から苦勞されていたのですね。

石田 確かに大変な労働環境ではありましたが、おかげでとっさの判断力や、業務を円滑に進めるための調整力など身についたことも多かったですし、社会に出る前にこういった試練を与えられたことで、就活を戦

厳しい環境を経験することも必要

YKK株式会社管理部門(IT部門)に採用内定

い抜く力に変えることができたので感謝しています。もう戻りたくはないですけどね(笑)

—就活対策にはどんなことを?

石田 キャリア支援センターの企業就職相談室に通いつめ、アドバイザーの川瀬英作先生と二人三脚でメンタルトレーニングに取り組んだり、指導教員の守本晃先生に自身の経験を踏まえたアドバイスをもらったりと、大学のサポート体制をフルに活用しました。

—どんな社会人になりたいですか?

石田 学業とアルバイトの両立に忙しく、充実したキャンパスライフとは言いがたかったので、社会人になったら、仕事とプライベートの両方を楽しむ余裕のある人になりたいと思います。社会人ならではのささやかな贅沢、たとえば一日中部屋のエアコンをつけ続けるなんていうのも味わってみたいです。



大学院総合基礎科学専攻

いし だ よし と
石田 理人さん

Students Now!

あきらめずに希望をもって

豊能地区の養護教諭に採用内定

—どうして養護教諭を志したのですか？

平居 高校生のときに病気にかかり、勉強や運動が思うようにできなかったときに、保健室の先生がやさしく相談に乗ってくれたことがきっかけです。わたしも、子どもたちの不安に揺れる心を笑顔で包み込める存在になりたいと思いました。

—豊能地区は昨年度から独自採用を始めていますね。

平居 ほかの自治体に比べて面接情報が圧倒的に少ないので、キャリア支援センターにある、自治体ごとの過去面接質問集を参考にしました。本番では、「公務員と民間の違いは？」「公務員が生み出す利益とは？」など、まるで市役所試験のような質問が続きましたが、地域の人々の暮らしづくりを支え、安心と安全を守ることが公務員の共通使命だと考えたので、それを養護教諭に置き換えて回答しました。

—学生生活で今後役に立つことはありま

したか？

平居 家庭教師運営会社で事務スタッフのアルバイトをした際の、保護者からの電話相談対応ですね。中には感情をぶつけてくる人もいますが、話を聞いてわかってほしいという期待の裏返しだと思うので、丁寧に要望を聞いて共感を示したり、顔が見えない分声に表情をつけたりして、話してよかったと思ってもらえる対応を心がけていました。養護教諭においても、継続的なケアが必要な子どもの場合は、保護者と関係を築き、連携していくことが大切なので、この経験を活用できるのではないかと思います。

—豊能地区の養護教諭の採用は平居さんただ一人だとか。

平居 養護教諭は一般的に狭き門といわれていますし、実際にわたしも現役では合格するのは難しいかもしれないと弱気になっていた時期もありました。しかし、夢をかなえるための努力を続けていれば、必ず結果はついてきますし、それを実現できるカリキュラムが養護教諭養成課程には整えられています。合格発表のその瞬間まであきらめず、希望をもって臨んでください。それと、保健室の先生には素敵な笑顔も必須項目なので、面接でも忘れずに！

養護教諭養成課程

ひら い み
平居 なつ美さん

—スポーツ専攻は教師志望の学生も多いですが、なぜ企業就職を選んだのですか？

中村 合同企業説明会などの就活イベントに参加してみて、日本には何百万と企業がある中で、学校以外の世界を知らないまま一生を過ごすことに疑問を持ったからです。年齢も立場もさまざまな人たちとの出会いの中で、己の実力を向上させたいと思い、企業就職に舵を切りました。就活では、メーカーのような物（製品）の形があるものではなく、形の见えない人間力で勝負する業界を中心に臨みました。

—人間力で勝負するとは？

中村 スポーツの世界は、チームの信頼を得なければ試合に出ることもできません。ぼくは小学生からサッカーを始め、小中高とずっとチームの中心でプレーしてきました。ところが、大学ではレギュラーはおろかベンチに入ることすら難しく、自分の弱点を洗い出したす練習に励みました。その姿を監督がずっと見てくれていたようで、徐々に出場機会が増えてチームに貢献でき、そんなときに監督からかけられた「お前を使ってよかった」という言葉に胸が熱くなりました。銀行も同じく、お客さまの信頼を勝ち取らなければならない厳しい世界です。あえてそういった環境に身を置き、人間力を磨き、家族のようになんでも相談して

厳しい環境で己を磨く

株式会社三井住友銀行 (総合職(リテールコース))に採用内定

もらえるような銀行員になりたいと思いました。

—では、どうして三井住友銀行に？

中村 説明会で登場した社員の人たちは、みな表情が輝き、言葉に力があり、会話に引き込まれました。魅力ある人とはこういう人たちなのかと実感し、絶対ここに入って自分と一緒に輝きたいという一心で、監督に頼み現役行員の卒業生を紹介してもらい、エントリーシートの添削や面接指導を受けることができました。

—後輩にメッセージを

中村 絶対に入りたいと思う企業があるのなら、とにかくその気迫を全面に出すこと！視線をそらさず、声は力強く。単純なことですが、普段から意識しないとできないので、ぜひ今から実践してください。

教養学科スポーツ専攻

なか むら かず や
中村 和也さん

内定学生にインタビュー

早め早めの対策を

日本出版販売株式会社(総合職)に採用内定

うにわたしが間を取り持って、All-winの関係を確立させたいと熱弁をふるいました。

—学生生活から得たことは何ですか？

山本 昔から世話焼きな性分で、大学では、留学生を学習・生活両面でサポートするチューターのアリバイトをしていました。慣れない異国の地で暮らす彼らの悩みを聞いて、一緒に解決することに喜びを感じ、それが同社の志望理由にもつながっています。担当する出版社や書店の方たちの悩みに真摯に向き合い、本音で意思を伝え合って、解決に導ければいいと思います。

—どんな仕事をしてみたいですか？

山本 同社では、書店経営に付加価値を創造するとして、カフェや雑貨の併設など、書店の新たな空間づくりに取り組んでいます。わたしも、お客様がワクワクして足を運びたくなるような、町の本屋さんの新しい形を提案して、お店の人たちとともに創り上げていきたいです。

—出版業界を中心に就活を展開したそうですね。

山本 小さいころから読書が大好きで、本を世に送り出す出版業にあこがれを抱いていましたが、実現に向けた具体的な行動はしていませんでした。しかし、3年生のときに参加したインターンシップ先で、スーツに身を固めて社員の一言一句も聞き逃すまいとメモを取る周りの姿に衝撃を受け、気持ちを切り替えました。マスコミ業界は採用の動きが早く、とりわけ出版業界は選抜試験が特殊なので、マスコミ業界をめざす学生向けの就活支援サイトに登録して、セミナーに行ったり、大学の就活ガイダンスにも毎回参加したりして情報を集めました。

—出版業界は特殊？

山本 職業柄、受験者の文学的な創作センスを問う試験が出されます。テーマに沿った川柳や自由作文などは、日ごろから文章を書く習慣をつけないと歯が立ちません。出版業界に限らず、業界に応じた傾向を把握して、早め早めの対策をとることが肝心です。

—面接ではどんなPRを？

山本 日本出版販売株式会社の業態は、出版社と書店の間を取り持つ、出版取次といわれるものです。エンドユーザーである消費者も含めて、四者すべてに利益をもたらすよ

教養学科文化研究専攻

やま もと え り か
山本 絵理佳さん

visit the LAB

【ラボ訪問】



特別支援教育講座(病弱教育)

ひらが けん た ろう
平賀 健太郎
准教授



「病弱教育を通して学校の本質を見つめる」

「病室から院内学級へ通う病棟の廊下を、ランドセルを背負ってやってくる子どもがいます。入院していても、元の学校と同じように通いたいとの一心からです。病気の子どもにとって、学校はそれほど大きい存在なのです」と平賀健太郎准教授はその心理を代弁します。

本学の特別支援教育専攻には、日本でも数少ない病弱教育コースを有しており、平賀准教授はその研究者のひとりです。病弱教育は継続的な医療を受けている子どもが対象で、その病種は小児がんや心臓疾患、こころの病、怪我などさまざまです。入院中は「院内学級」に通えますが、退院後も通院治療など引き続きケアが必要なケースも多く、いわゆる通常の学校にも、病弱教育を必要とする子どもたちはたくさんいます。

平賀准教授もかつては院内学級に通っていました。「思返しのような気持ちで研究に携わっています」と語る平賀准教授ですが、「駆け出しのころは、子どもたちの気持ちを代弁するのだと意気込んでいましたが、次第に、わたしの話すことは本当に病気の子どもたちに共通することなのかという思いが強くなり、当事者の自分と研究者の自分との間でバランスが取れず、病弱教育の対象者であったことを窮屈に感じるこのほうが多かったのです」と元当事者ゆえの悩みも抱えていました。11年間の研究人生を経て、「ようやく、ささやかな自信のようなものを持って、当事者としての心理も反映しつつ、研究者としてある程度客

観的に話せるようになりました」とはにかみます。

現在の研究活動の中核をなすテーマが「復学支援」です。復学とは、入院していた子どもが元の学校に戻ることを指します。「入院中の子どもたちは、早く元気になってクラスメートと遊んだり、勉強したりすることを励みに頑張っています。ただ同時に、自分が忘れられていないか、居場所はあるのかという不安も強く抱いているのです」。復学支援が必要な理由には、こうした心理が影響しています。「中には退院後、学校になじめない子もいます。学校に戻ることを支えにつらい治療に耐えてきた子どもたちが、『戻るんじゃないか』と吐露する姿を思うと胸が締め付けられる思いです」。そこで必要となるのが地域の先生のサポートです。「入院の子どもを直接支えるのは院内学級の先生ですが、お見舞いやビデオメッセージなど、元の学校からの応援が闘病と復学への意欲につながります。二つは車の両輪のようなもので、どちらが欠けてもうまくいきません」と強調します。

2015年からは、この春大阪に誕生することのホスピスで活動予定の学生を対象に、専門性を身につける「学びの支援講座」を開催しています。平賀准教授自身、講座を通して、学びの意義について考えることが多くなったといいます。「現代では“学び”が目標達成の手段になりがちで、純粋に楽しみにくくなっているのではないのでしょうか。本来は逆で、“目標”の方が現在



一般社団法人こどものホスピスプロジェクトと連携した「学びの支援講座」での様子

の“学び”を充実させる手段なのだと思います。病気によって学びが制限された彼らがなぜ学びたがるのか、それは、未知なものに好奇心を持つことで、未来を強く信じられるからではないかと思うのです。忘れられがちな教育の本質が、彼らの姿を通して浮かび上がります。

今後は、特別支援教育や病弱教育を学んだことのない学生に講義をしたいと考えています。「病気というのは、すべての子どもにかかるリスクがあり、すべての先生に病気の子どもを担当する可能性があるという意識を、今のうちから持ってほしいのです」。最後に、平賀准教授は教師の存在意義にも言及しました。とても辛いことですが、関わっている子どもが亡くなってしまうことがあります。教育の意味について思い悩みます。ただわたしは、その子どもにとっては、自分の成長を信じて、最後までそばで過ごしてくれた先生の存在そのものが、大きな意味があったと思うのです。教師は、子どもたちにとって決して替えのきかない存在なのですから」



visit the LAB

【ラボ訪問】



健康生活科学講座

えの き たい すけ
榎木 泰介
准教授

「研究者として、教育者として」

「アスリートの身体はスポーツカーの高加速とハイブリッドカーの低燃費を兼ね備え、非常に効率的にできています。F1カーの技術が一般自動車に適用できるように、アスリートのエネルギー効率が、一般の方や、入院患者のようなうまくエネルギー産生できない人にも応用できないかを研究しています」と榎木泰介准教授は研究テーマを説明します。

運動は生涯を通して必要なもので、その効能は、子供の発育発達、心身の健康の保持増進、リハビリなど限りがありません。榎木准教授は現在、筋肉にエネルギー源を運ぶタンパク質(膜輸送タンパク質)に注目し、運動による骨格筋の適応変化について研究を進めています。また、以前の所属先である国立スポーツ科学センター(JISS)や岐阜県高山市と提携し、アスリートの高地トレーニングに帯同して、血液や尿などの成分を分析し、身体に起こる変化を調べています。「彼らの身体特性を解析することで、その効率性が何に由来しているのか解明したい」と意気込みます。

学生時代、身体能力が成績に直結するアメリカンフットボールに熱中していたことから、どうして同じ練習をしても能力差が出るのか疑問に思い、運動生理学に興味を持ちました。本学の健康科学専攻を卒業し、東京大学大学院を経て、当時創設されたばかりのJISSの研究者と、華麗な経歴を歩みます。

JISSは、日本オリンピック委員会や競技団体、国内外の研究機関と連携して、日本人選手の競技力向上を目的に、スポーツ医科学

における最先端の研究を行う組織です。榎木准教授は、ジャージでフィールドを駆けまわり、実験室では白衣姿で生化学的な分析を行いました。各種競技団体と連携して、コンディション調整や急激な減量による身体への影響などを調査し、競技成績の向上に取り組みしました。「一流アスリートとコーチとの議論や研究は、とてもやりがいのある仕事でした。このままずっとここで研究者として人生を送るんだろうなと思っていました」

JISSで働いて3年目、美術大学での非常勤講師の兼業が人生を変えるきっかけの1つになりました。前期は楽しく体を動かす実技カリキュラムで学生たちに大人気。しかし一転、後期の座学講義になると、一様に「つまんない」という表情で、受講カードが真っ黒に塗りつぶされることも。「アスリートや運動に興味がある学生なら目を輝かせる内容も、美大生にはまったく響かない。天狗になっていた鼻がへし折られました」と笑います。教官室で毎回反省会をし、どうすれば興味を持ってもらえるか考え、改善を重ねました。

そんなとき、本学の講師募集を耳にします。「美大での経験がなければ、きっと面接でも“俺は偉くて、専門家だ”というオーラを全開にして、今ここにはいなかったでしょうね」。当時31歳。茶色い髪を黒く染めなおし、教育者榎木泰介の人生がスタートしました。

本学では授業・研究とともに、学生の課外活動にも熱心に関わっています。顧問を務めるアメフト部では、部員との深夜に及ぶ

ミーティングにも付き合い、練習法やトレーニング理論を伝授します。就任3年で、3部リーグ降格争いから1部リーグ昇格にまで導きました。それでも学生スポーツで勝つには、人間としての成長が鍵と説きます。「トップアスリートは、誰に対しても礼儀正しく、人格が磨かれています。部員には、先生や職員だけでなく、キャンパスであった人には誰にでも挨拶しなさいと指導しています。一例ですが、それもスポーツで勝つためです」

今後は心身と運動、健康とのリンクについても研究領域を広げていきたいと語ります。「野生動物は生まれたらすぐに独りで歩かないと獲物として食べられてしまいますし、食べるためにも獲物を追いかけて、草木を求めて移動する必要があります。動くということは生きる上でとても重要で、そこから考え学びます。しかし現代は学力偏重で、身体という器づくりがおろそかになっていないでしょうか。運動の有用性を子どもの身体と心の発達につなげていきたい。研究を教育に還す、それも教育者としての使命だと思っています」



学生の研究指導にも情熱を注ぐ。

附属平野小の前田 凜太郎くんが伊勢神宮奉納書道展で文部科学大臣賞に輝く

第54回伊勢神宮奉納書道展(毎日新聞社、伊勢神宮崇敬会主催)が開催され、応募総数1万3556点の中から、附属平野小学校3年生の前田凜太郎くんが最高賞の文部科学大臣賞に輝きました。

兄遼太郎さんの影響で、小学1年生から書道教室に通い、「白い紙に筆を下す感触が好きで、学校の書道の時間が大好き」という凜太郎くん。どっしりとした力強い書体の特徴の受賞作「大志」は、300枚以上の中から生まれた渾身の一作です。

受賞にあたって凜太郎くんは『大』と『志』を同じ大きさで書くのが難しかったけれど、夢中になって楽しかった。先生や友達にもほめてもらえてとてもうれしい」とはにかみながら笑顔を見せました。

母の郁美さんは「全国から様々な年代の方が応募する、伝統ある書道展なので、受賞の連絡をもらって驚きました。今は野球に夢中で、真っ暗になっても練習している日もありますが、スイッチが入ると夏休みであっても毎日部屋にこもって練習していました。きっとその成果が作品にあらわれたのだと思います」と目を細めて息子の快挙を称えました。



科学実験教室「サイエンスラボ」
講師

おおしま ひろ ふみ
大島 浩文さん

教養学科自然科学専攻
2011年卒

学校では体験できない感動を!

科学を身近に楽しく!



塩化アンモニウムの再結晶実験。試験管の中を雪が舞う。

透明な液体の入った試験管に水をかけると、キラキラと雪の結晶が生まれて舞い出しました。「塩化アンモニウムの再結晶実験です。飽和水溶液を冷やすと、溶けきれなくなったものが結晶となって現れるのです。きれいでしょ?」

株式会社アップが運営する「サイエンスラボ(以下ラボ)」は、「身近な不思議から科学に親しむ」をコンセプトに、大阪・兵庫・奈良・京都で科学実験教室を展開しています。大島浩文さんは、上本町校の講師として、保育所・幼稚園の年中から中学生まで、約400人に科学の面白さを伝えています。

ラボの特徴は、学習指導要領に則らない独自のカリキュラムを組んでいること。「学校の指導要領は参考にしていますが合わせることはありません。例えば指導要領で小学5年生となっている「水溶液」を、小学1年生の最初の実験で学びます。ものが水に溶けるしくみはとても重要で基本となりますから」。授業の流れは、予測→実験→考察の手順で進行します。「年長の浮き沈みの実験でいうと、野菜を使ってどれが浮いて、どれが沈むか子どもたちに推察させ、実際に水につけて確認し、何が違うかを考えていく流れです」。まずは子どもたち自身で考え、実践するのが基本です。

ラボへの入校理由で多いのが、保護者からの「実験をさせてあげたいけれど環境がない」という声です。ラボでは、上皿天秤や顕微鏡のような学校にもあるものから、大学の研究室にしかないようなものまで、幅広い実験器具を揃えています。「ここでは毎回正しい実験手順をしっかりと説明するため、子どもたちは実験に夢中になりながら、自然に実験器具の扱い方や実験技術を習得します」。実践して、楽しく知識を身につけられるところも支持されているようです。

「学校と違い、多くの子どもたちを担当できることにやりがいを感じます」と語る大島さん。子どもたちへの接し方は、「目を見て話す、ダメなことはダメとはっきり言う、頑張ったら褒める、の3つを軸にしていますが、どういう指導法が一番響くのかはまだまだ修行中です」と苦笑い。ただ、「実験を通して子どもの意外なこだわりを見つけたり、コミュニケーションの苦手な子が一つのきっかけでスムーズに話せるようになったりと、授業のたびに毎回新たな発見があって嬉しい」と顔をほころばせます。

本学に入学したのも、教師になって理科好きの子どもを増やしたいからでした。しかし4回生になり、「理科の楽しさを伝えるのは教師だけとは限らない」と考えるよう

になりました。「大教大の良いところは、教師になった人や企業就職した人からいろんな情報が集められることです」。さまざまな人に相談した結果、自分の可能性を広げるために、企業就職の道を選びました。教育業界を中心に就職活動して現在の会社に入社し、「毎日仕事をするのが楽しくてしかたがない感じです」と話します。

現在の仕事と教師では何が違うか尋ねたところ、「カリキュラムを自分たちで考えて、それを直接子どもたちに伝えられること」と答えました。「ラボでは『自由研究コンクール』を開催しています。子どもたちの自由研究をサポートするのが始まりだったのですが、作品の中から優れたものを審査して表彰しようという動きになって、向井康比古先生(本学副学長)にも審査員を務めてもらいました。教育機関や企業に働きかけてつながりが生まれるのもこの仕事の魅力です」と語ります。

ラボの学びをもっと多くの子どもたちに伝えていきたいという大島さん。「子どもたちから学ぶ部分も多く、その思考の柔軟さにはいつも驚かされます。いつか、ラボの子どもたちの中からノーベル賞受賞者が生まれるように、もっと科学を好きになる心を育んでいきたいです!」



読みのススメ

【第13話】いじめ

文部科学省調査によれば、小中高等学校等のいじめ認知件数報告が平成26年度約18万8千件、また、重大事態の発生件数は450件と前年度比約2.5倍にのぼったとされています。

「いじめ」は「いじめ防止対策推進法」で定義されており、その定義に当てはめて発見し、当該児童等を説諭すればそれで落着かという、当然ですがそれほど簡単なものではありません。「いじめ」側と「いじめられる」側が互に入れ替わったり、かえって潜在化するといった状況が出て来る恐れもあります。

個別の事案への対応はもちろん大切ですが、やはり、仲間はずれにしたり、傷つけたり、『ウザい』『キモい』とけなしたりする行為そのものが問題なのだと理解させることが最も大切と考えます。そしてこのことは、本学の学生がやがて教員として教育現場で直面するであろう、大きな指導上の課題の一つであるとも思っています。

今回は、14歳の少年が学校で飛び降り死したことを発端に、いじめがあったか否か、他殺なのか自殺なのか、学校を舞台に教師、親、そしてマスコミを巻き込んだ事件を描く宮部みゆき氏「ソロモンの偽証」を取り上げます。同級生の死という大事件にもかかわらず、当の同級生には事の真相は伝えられません。そこで、一人の女子生徒の発案で同級生達が検事、判事、弁護人に分かれて裁判を行い真実に迫ってゆきます。事件、決意、法廷の三部に分かれ、緻密な構成で描かれる大作で、昨年映像化もされた話題の作品でもあります。

氏は1999年「理由」で直木賞を受賞しますが、それ以前に候補となった作品が「龍は眠る」「火車」など計5作品にのぼり、まさに当代随一の作家と言えます。ミステリー、ファンタジーそして時代物と、縦横無尽の活躍を見せる宮部ワールドに是非どっぷりつかってみてください。

(理事:若井祐次)

天遊vol.36アンケート

●本号でよかった記事を下から選んでください。
(3つまで。その他は具体的にお書きください。)

【 】 【 】 【 】

(その他)

- | | |
|--------------------|------------|
| ①府立高校教職コンソーシアム連携事業 | ②手をつないで |
| ③内定者インタビュー | ④ラボ訪問 |
| ⑤卒業生キャッチ | ⑥附属学校園ウォッチ |
| ⑦本読みのススメ | ⑧TOPICS |

●取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。

()

●本誌をどこで手にされましたか。

()

●本誌をお読みになってのご意見・感想などをお聞かせください。

●次号以降、毎号「天遊」の送付を希望される方は記載をお願いします。
(一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに☑をしてください	☐ 次号以降、毎号「天遊」を送付希望します。 ☐ 今後「天遊」の送付を停止します。
ご住所 〒	
お名前	
お電話番号	

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用いたしません。

1 第1回大阪教育大学ホームカミングデーを開催

大阪教育大学の卒業・修了生を母校に招待する初めての同窓会イベント「ホームカミングデー 懐かしいあの山にのぼろう」を、11月1日(日)に柏原キャンパスで開催し、卒業生・修了生、教職員・学生を含め100人を超える参加がありました。

栗林澄夫学長、同窓会「天遊会」の島内武会長が挨拶を述べた後、入口豊理事・副学長が「柏原へのキャンパス移転後の歩みや近況」について報告しました。続いて、現

豊中市長である浅利敬一郎氏(1969年教育学部卒)が「人との出会いを力に変えて」と題した記念講演を行いました。

司会進行は放送研究会が担当し、邦楽研究会の演奏、『私とあなたここに生まれてプロジェクト』の合唱、茶道部の呈茶等で、学生が卒業生を大いにもてなしました。

最後は、混声合唱団のリードにより、参加者全員で学園歌を斉唱し、閉幕しました。

参加者からは、「今日は学生の司会や演

奏などとても感動し、学生時代のように胸が熱くなった」との感想が寄せられました。



2 子育て支援事業者を認定する「くるみんマーク」を取得

本学は11月10日(火)付けで、大阪労働局から次世代育成支援対策推進法に基づ



く基準適合一般事業主に認定され、「子育てサポート企業」として次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。11月24日(火)には、大阪労働局で認定証の交付が行われま

した。大阪府の大学では、大阪大学に次いで2校目、全国の教育大学でも、愛知教育大学に次いで2校目の認定となります。

本学では、平成22年4月から平成27年3月までの5年間、子育て支援環境を整備する期間として様々な行動計画を策定し、妊娠中および出産後の教職員が健康管理などについて相談できる窓口を設置したり、出産・育児に関する休暇をはじめとする仕事と子育て両立支援のための各種制度を

ウェブページで周知し利用を呼びかけるなど、男女共同参画と子育て支援を推進してきました。今回の認定は、これらの取り組みが評価されたものです。

今年度から5年間の新たな行動計画もすでに策定しており、今後も子育てする教職員を継続的に支援するとともに、学生に対してもキャリア支援の観点から、大学や企業の両立支援の取り組みを周知していきます。

〈キリトリ〉



料金受取人払郵便

柏原局
承認

233

差出有効期間
平成28年
7月31日まで

切手不要

郵便はがき

5 8 2 8 7 0 5

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
大阪教育大学 広報室 行



〈キリトリ〉

公式Facebookページを開設しています

速報ニュースや公式ウェブサイトに掲載している情報を中心に、本学を身近に感じてもらえる記事、写真や動画などを配信しています。是非、「いいね」をクリックしてください。

<https://www.facebook.com/OsakakyoikuUniv>



LINEスタンプ

好評販売中!

スタンプ
ショップで
検索してね!

Q たまごどり

本誌にご意見をお寄せください。

今後の紙面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたい事などを、はがきまたはwebアンケートでお聞かせください。

天遊Vol.36
webアンケート



「天遊」とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス総合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。記念碑の揮毫は水嶋昌(山耀) 本学名誉教授によるものです。



UD FONT



本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、植物油インキにて再生紙に印刷しています。

この印刷物は、12,000部を544,320円で、すなわち1部45.36円で製作しました。

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| ① 本学学生 | ② 本学卒業生 | ③ 本学保護者 |
| ④ 本学教職員 | ⑤ 附属学校生 | ⑥ 附属学校保護者 |
| ⑦ 附属学校卒業生 | ⑧ 附属学校教職員 | ⑨ 名誉教授 |
| ⑩ 教育委員会関係者 | ⑪ 他大学教職員 | ⑫ 他大学学生 |
| ⑬ その他() | | |